

遙か千年を越す伝承文化の奇祭



小坪須賀神社
葉山森山神社

三十三年大祭記念誌



三十三年に一度、須賀神社須佐之男命と森山神社奇稲田姫命との出会い。
●平成八年九月十四日(渡御) — 十六日(還御)

●三十三年大祭編集委員会

33年大祭記念誌目次

01	33年大祭の由来.....	1
	神輿二基「小坪須賀神社・葉山森山神社」 小坪祭礼役員並びに各町内勢揃い	
02	第一部 平成8年33年大祭の記録.....	13
	「1」 あいさつ	
	逗子市市長 平井 義男	
	葉山町長 守屋 大光	
	小坪氏子総代会長 一柳 秀一	
	葉山森山神社	
	氏子総代会長 鈴木喜一郎	
	「2」 祭礼日程表及び順路	17
	「3」 本部役員並びに各町祭礼委員長.....	19
	「4」 渡御.....	21
	「5」 15日の一日.....	28
	「6」 還御.....	30
	「7」 別れを惜しんで	32
	「8」 特集.....	34
	あいさつ小坪区長	
	夢とロマンに満ちた伝承文化	小坪小学校長
	交通事情を慮って	逗子市交通安全協会
		小坪支部長
	33年大祭の思い出	逗子市消防団
		第七分団長
	33年大祭を顧りみて	小坪商栄会長
	33年大祭の思い出について	八雲神社宮司
	33年大祭をふり返って	神輿担当責任者
	天王唄係として	天王唄担当責任者
	33年大祭と天王唄	指導者
	33年大祭を顧りみて	各町祭礼委員長
	「9」 座談会「33年大祭を語る」	53
	「10」 33年大祭に関する詩	56
03	第二部 参考資料	59
	「1」 33年大祭予算書	
	「2」 昭和39年の祭り	
	「3」 昭和7年の祭り	
04	編集後記	69
05	広 告	70

三十三年大祭の由来



須賀神社 絵馬



森山神社 絵馬

伝承文化 須賀神社・森山神社 三十三年大祭由緒略記

小坪氏子総代会

三十三年目ごとに行われる、小坪須賀神社と葉山一色の森山神社が一緒になって行う大祭は、三浦古尋録によれば、一千年以上の長きに亘って続けられているとのこと。

宮司家の神幸記録によれば、この祭りは、明治三十三年九月五日に行われ、次は昭和七年八月二十一日、さらにその次は、昭和三十九年九月十三日に行われました。そして今回は、平成八年九月十四日に行われましたが、これは、長き伝承文化としての祭りごとであります。

三十三年目という年代の起源は定かではありませんが、わが国には古くから人は年代ごとに祝いの節目があり、故人の何回忌とって供養をし、共にその時点を一つの節目即ち良き機会として祝福し、または供養するという、良き風習が残されております。即ち、須賀神社、森山神社の大祭も久し振りですが、一つの節目、良き機会としてあらためて夫婦神（めおとがみ）の神格を確認し、神慮（しんりょ）に景仰（けいごう）するための特殊神事（神婚祭）でもあります。

須賀神社の祭神は、須佐之男命（すさのおのみこと）（男神）（おがみ）であり、森山神社の祭神は奇稲田姫命（くしいなだひめのみこと）（女神）（めがみ）であります。この夫婦神（めおとがみ）については、三十三年目ごとに須佐之男命の神輿が葉山の奇稲田姫命のもとに七日お泊まりに行くと言う伝説がありますが、明治以降は三日間となっているようです。

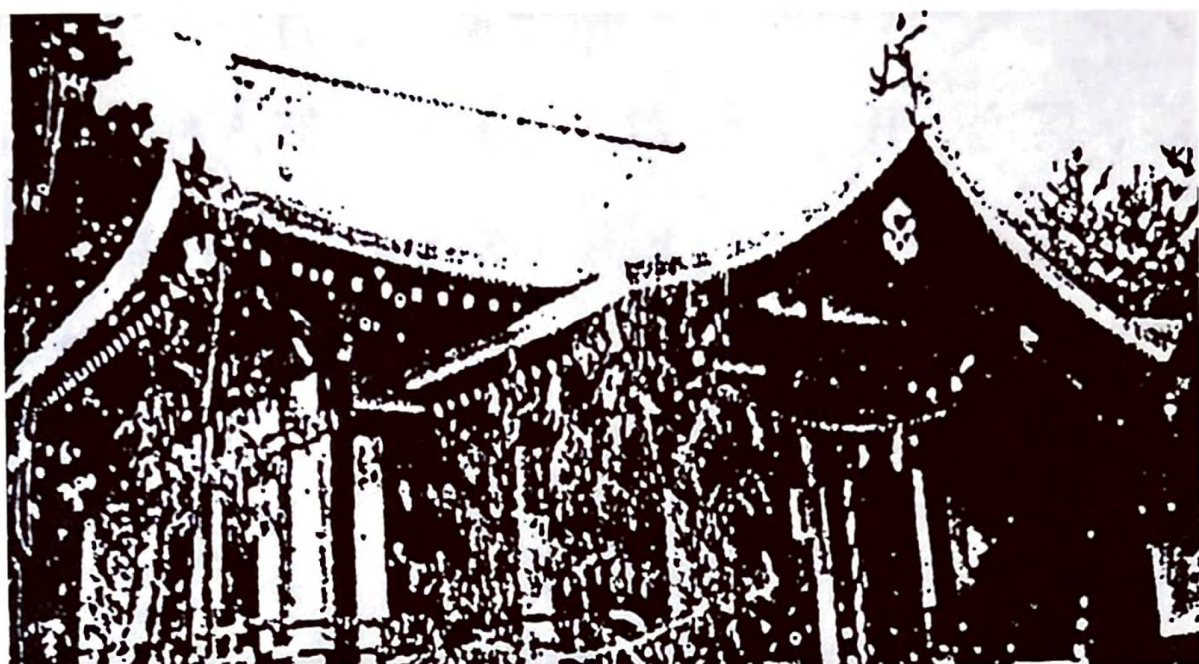
男神を迎える側が女神であることは、古代信仰の論理であり、古代祭祀が行会祭り（ゆきあいまつり）として伝承されてきたものと考えられます。現代風では、一つのロマンの神事とも言えましょう。

神事は、須賀神社において修祓（おはらい）祝詞奏上等、祭儀を済ませた後、氏子によって各町を巡幸のうへ、神輿と鉾、大櫓等を飾り付けた車と、これに各町がこれまた華々しく飾り付けた囃子山車が供奉して進発致します。森山神社に到着しますと、神輿を本殿に奉安して両宮司の祝詞奉上、玉串奉奠があり、このあと直会（なおらい）に移ります。須賀神社の神輿は、この夜お旅と称して社殿脇の幄宮（とつみや）（お仮屋）に遷座、お休みになり翌朝森山神社の氏子によって町内を巡幸し、その夜再びお旅せられて三日目の朝、当所氏子によって還幸に移り、途中小坪入り口で小休止、シャンシャンと手を打って小坪側氏子が承継し、須賀神社に還幸されます。

両社の古老の話によれば、人がこの世に生まれ来て三十三年ごとの大祭を三回も迎えられると言う事は長生きの証として、目出たい盛大な祝事として喜ばれております。明治、昭和初期の祭りは盛大で、小坪住民は神輿山車と共に大勢の人が森山神社までついて行き、当日は、家中が留守になったと言われていました。また、巡幸の沿道も至る所で多数の人達が出迎えをし、大変な賑わいでした。昔は道路が整備されていなかったのも、一部は海上を渡御されたとも推測されています。

当時は、マスコミも発達していない時代でしたが、現在では三十三年目ごとの奇祭として、内外に報道される事と思います。なお、余談になりますが、須賀神社の神輿は三十三年祭以外に、昭和四十七年八月、NHK主催の「ふる里うたまつり」が三浦地区で行われた際、逗葉代表として出場し、伝承ある神輿祭礼を披露、これが全国に放映されて、今に残る奇祭として感動を与えました。

森山神社 由緒



祭神はくしいなだひめのみこと奇稲田姫命（すきのおのみこと須佐之男命の妃）で家業繁栄・家庭円満・農耕の守護神と仰ぎ、天平勝宝（七四九～七五七）の頃、良弁僧正によって勧請されたと伝えられている。

天正十九年（一五九一年）徳川家康公より社領三石が寄進されている由緒ある神社です。

もとは三ヶ岡山の海岸裾にあったが、江戸時代後期に当所に移遷された。草葺屋根の美しい宮殿であったが、いたみが甚だしく昭和三十九年大祭を記念して氏子崇敬者の浄財で、今の社殿に改築されました。

須賀神社 由緒



一、御祭神 ^{すきのおのみこと} 須佐之男命

一、御由緒 相模国風土記稿に「天王社是も鎮守なり。」とある。古老の言によると古来須賀神社とも鷺浦神社とも称されたが、俗に天王様と呼ばれたという。

社号の「須賀」とは古事記によると、祭神が^{やまたのおろち}八俣遠呂智を退治して^{いなだひめ}稲田姫を^{めと}嫁り宮殿を建てる場所を出雲国に求めた時、須賀の地にいたり「我心するが如し」と申されて其地に宮殿を建てられたという。その故事に倣いて「須賀神社」と称するのである。

三浦古尋録によれば、葉山の森山神社との祭りについて「コノ祭りハ三十三年目毎也。此祭礼ノ時ハ例ニヨツテ小壺村ノ天王ノ神輿ヲ借用フルトナリ。祭礼神輿ニ札ヲ張、今其三十四枚有、此札年来ヲ数レハ文化壬申年迄千百二十二年ニナル。」とあり。これによれば奈良朝時代よりの古社ということになる。相模国風土記稿にも、「神樂、管弦を奏し二神輿を^{かき}昇て海岸に至る。是を^{しんき}神忌と云う。」とあり、この祭りの古い伝統型式を物語っている。

古老の言によれば須賀の^{おがみ}男神と森山の^{めがみ}女神とは夫婦神であるから三十三年目毎にお宿りに行くのだという。

訪れるものが男神で迎える側が女神であることは古代信仰の論理であり、古代祭礼が^{ゆきあいまつり}行合祭として伝承されてきたものとする。

神輿二基「小坪須賀神社・葉山森山神社」



葉山森山神社の神輿

祭神…奇稲田姫命（女神）
（くいしなだひめのみこと）

小坪須賀神社の神輿

祭神…須佐之男命（男神）
（すさのおのみこと）

復元なった森山神社の神輿
（平成8年9月に完成）





本部役員ならびに各町役員一同（天王浜にて）



西町氏子勢揃い



南町氏子勢揃い



中里町氏子勢揃い



伊勢町氏子勢揃い



東谷戸町氏子勢揃い



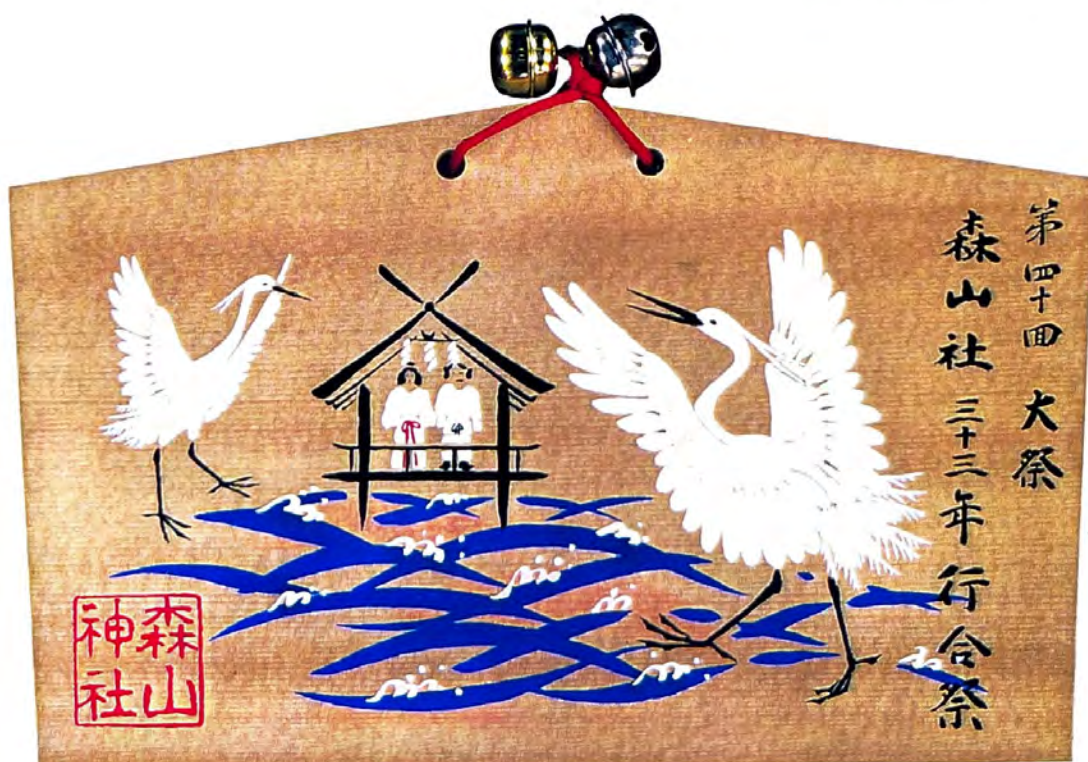
西谷戸町氏子勢揃い



第一部 平成8年大祭の記録



須賀神社 絵馬



森山神社 絵馬



三十三年大祭が盛大に無事挙行され、大変おめでとうございます。

初日の朝には生憎の雨空でしたが、私が市役所の前で皆様にご挨拶させていただいた時には、雲の切れ間から日の光りすら差し込み何か運命的な出会を感じたものであります。何分にも三十三年に一度の事ですので、古い記録が十分でなかったものと伺っておりました。しかし、関係者の皆様のご努力と周到なご準備が整っていたため、これといった事故もなく無事に3日間の大祭が過ごせたことは、関係者の皆様は元より、私と致しましても喜びとするところであります。

次の三十三年大祭は2028年ということで、激しく変動する社会が21世紀の私たちをどの様に導いて行くのか知る由もございませんが、私と致しましては世代や世相がいかに変化しても、この様な伝統ある行事は絶えること無く、末永く伝え残して欲しいものであると考えております。関係者の皆様の益々のご発展をご祈念申し上げます。



須賀神社と森山神社で行われております、33年記念誌が、平成8年の大祭を契機に発刊されますことは、祭を執行された役員の熱い志が結集されている証拠だと存じ、心から関係各位の御努力に敬意を表します。

この祭につきまして三浦古尋録には、「此祭礼の時は例によって、小坪村の天王の神輿を借り用い、祭礼神輿の札を張り今其の札34枚あり「文化9年」遡ってみると1132になり……」とその歴史が如実に記されています。

文化9年からすでに184年が経過しており、加えますと約1300年余りに及ぶ伝統ある祭が両町内の人等により伝承されていることとなります。

国際化の進展と共に、とかく古来より伝わる自国の文化を忘れがちにある昨今、先祖から受け継がれ、地域に根ざしたこの伝統ある祭の記録は、やがて次世代の人達の手引として大いに役立つことと思えます。



寒さ厳しき候、皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。昨年9月の須賀神社、森山神社33年大祭には、市及び各団体、小坪区会、理事、各町祭礼委員会、区民の皆様方の御協力を得て何事もなく無事執行出来ました。

大祭にあたり心配された資金も小坪をはじめ他町の方々より厳しい経済状況下にもかかわらず御浄財を賜わりお陰様で大祭が盛大にかつ厳かに終了することが出来ました事を心より厚く御礼申し上げます。

顧みますと9月14日渡御の日は朝から大雨のため心配されましたが葉山に着く頃には須賀・森山両神社の御加護で雨もあがり大勢の方々の出迎えを受け一色海岸において須佐之男命と、奇稲田姫命との行合神事が厳かに執行されました。

16日還御の日は渡御の日とはうって変わり晴天に恵まれ、小坪・葉山の皆様方の御協力でお坪は大変な人出で賑わい大祭が無事盛大に執り行われました。

今後においても須賀、森山両神社が一層の交流を深め伝承文化の大祭を末永く継承して行くことが私共の使命であると思えます。

次の33年目に巡り会う後世の方々の為に今回の記録、写真等を保管して次の大祭の準備資料になればとの思いでここに記念誌を発刊することにしました。

以上をもって挨拶と致します。



写真中央－葉山の森山神社氏子総代会長 鈴木喜一郎氏
その左－小坪氏子総代会長 一柳 秀一氏
その右－小坪区長 岡村 錦一氏



須賀神社・森山神社33年大祭行合祭りが盛大に厳かに又楽しく無事に斉行されましたことは御神徳のもと氏子住民崇敬の皆様方の御奉賛の賜と心からお礼申し上げる次第で御座居ます。

殊にこの度は森山神社の神輿が復元され古実に則り両神輿が揃っての祭事が執行されましたことは私共氏子としてこの上ない喜びです。

威厳のある須賀神社の鳳凰輦に夫婦輿として相応しい品位のある葱花輦が建立されましたことは皆様方の御奉賛の賜と感謝申し上げます。

また此の度、行会祭りが葉山町無形民俗文化財の指定をうけたことは先祖・先輩のお陰小坪の方々のご協力と感謝申し上げます。

今後は、例祭・世計の神事も共に伝承文化として末永く継承して行くことが私共の使命であります。

須賀・森山両神社氏子の皆様方のご協力を切にお願い申し上げます。

これからも両神社氏子住民がより一層交流を深めたく存じます。

御神徳御加護のもと皆様の益々の御清栄を祈念し御挨拶と致します。



森山神社 神輿

三十三年大祭 祭礼日程

9月13日（金）

夕方～	宵宮（小坪須賀神社側）
8:00～10:00	御水取り儀式（葉山森山神社側）
14:30～18:30	神輿の町内巡回パレード（葉山森山神社側）

9月14日（土）渡御

6:30～9:30	須賀神社境内にて祭儀
	須賀神社神輿、小坪出発（各町の屋台は天王浜付近に集結し行動する）森山神社神輿出発（一色公園へ）
10:00～10:20	逗子市役所前（小坪－久木－逗子銀座通り－市役所）
10:20～11:00	葉山到着（市役所－田越橋－長柄交差点－葉山小－御用邸前）
11:00～12:00	葉山一色海岸到着（神輿担ぎ徒歩行列）
12:00～13:00	昼食
13:00～14:00	森山神社側 祭祀 葉山婦人会有志の方の踊り奉納
14:30～16:30	森山神社へ（神輿担ぎ徒歩行列）（神輿安置）
16:40～17:40	直会（なおらい）
18:00～	海岸まわりで小坪へ帰る（森山神社－葉山真名瀬海岸－六代御前－久木－小坪）
19:00	神輿担ぎ（葉山町内の人による）
21:00	森山神社境内到着（2基社殿内に安置）

9月15日（日）滞在

	各町内毎に囃子で33年大祭を祝う（小坪須賀神社側）
8:00～19:30	森山神社より須賀、森山両神輿が一色町内を巡行（葉山森山神社側）

9月16日（月）還御

8:00	森山神社より神輿出発（須賀神社神輿のみ）
11:30	小坪の各町山車は小坪バス停前で森山神社の供人を出迎えする
12:00	神輿、葉山より到着（小坪バス停前）
12:00～12:50	昼食
13:00～14:30	小坪バス停より小坪の山車が先導し、森山神社氏子により神輿を担ぎ天王浜に向かう
14:30～15:30	須賀神社側 祭典儀式
15:40～16:30	直会（なおらい）
15:40～16:30	葉山より神輿受渡後、祭典委員により須賀神社へ安置
18:00	各町山車を小屋に格納終了

渡御の順路

相
模
湾



本部役員並びに各町祭礼委員長

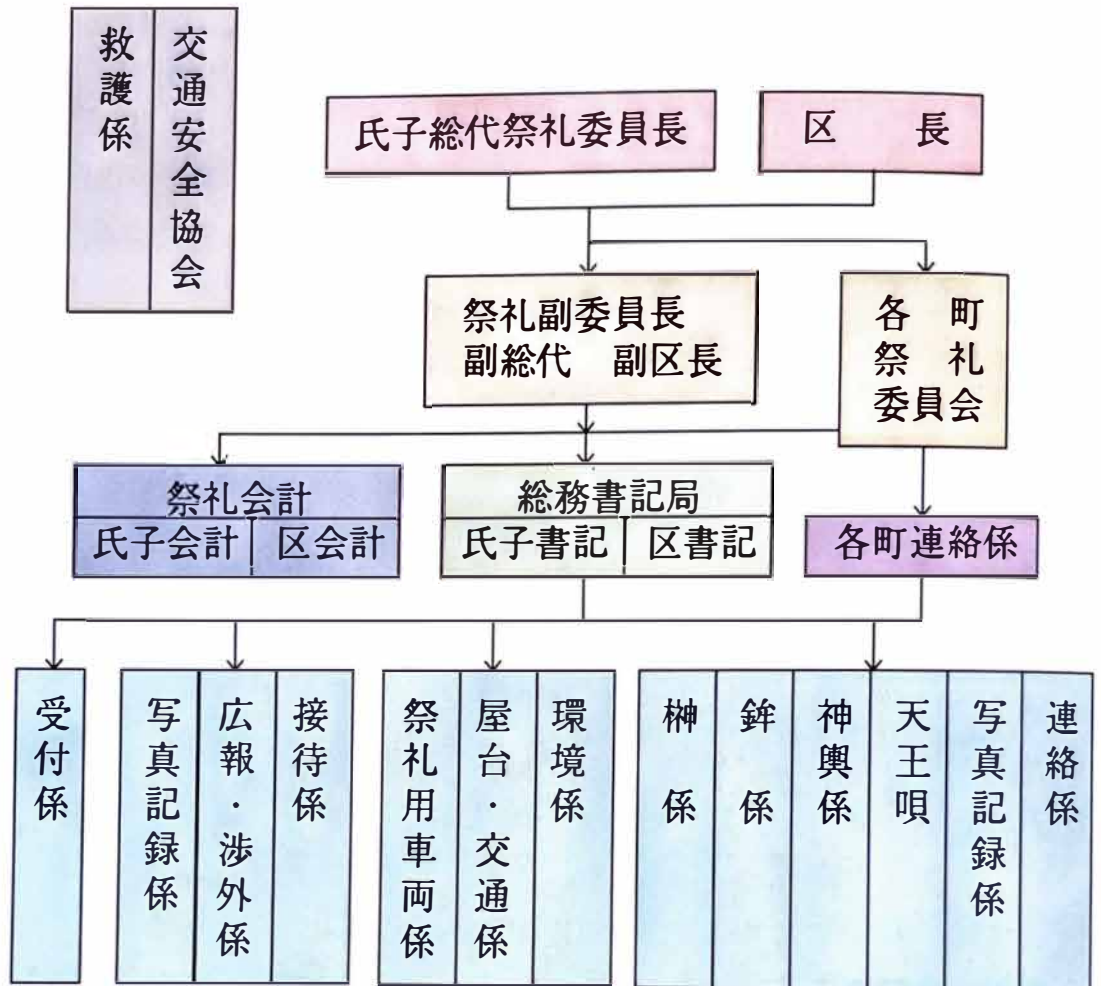
区分 役職	区 会	氏子総代会
区 長	岡村 綿一	
祭礼委員長		一柳 秀一 (総代会長)
祭礼副委員長	根岸 俊二 (副区長) 大島 臣次 (〃)	高田 久男 (副総代) 高井総一郎 (〃)
総 務	草柳 勝吾 (書記) 宮崎 幸司	岡本 彬 (書記)
会 計	田中 喜吉 (会計) *松井圭吾*村山仁史	池田 博範 (会計)
受 付 係	*松本 孔作 *久米 宏行 *脇川 正暢	花本 悦二
広報渉外係	根岸 俊二 (兼務) 草柳 勝吾 (〃)	高田 久男 (兼務) 岡本 彬 (〃)
接 待 係	区 三 役 河合 成彦 *内田 稔 *平井 敏雄	氏 子 三 役 高田 久男 (兼務) 花本 悦二 (〃)
屋台・交通係	大島 臣次	高井総一郎
祭礼用車両係	牛尾 泰邦 平井 正男 宮野 亮一	
榊 係	翁川 良一 黒原 一郎 高橋 一三	日夏 昭
鉾 係	岡本 征司 高崎 紀良	長沼 利夫 高橋 登
神 輿 係	岩本 勝己 篠田 実	井上 哲吉 武樋 昌吾 中里 嵩
天王唄係	高橋 二郎	小柴 博
連絡 係	草柳 勝吾 (兼務)	岡本 彬 (兼務) 矢部昭太郎
写真記録係	松本 孔作 (兼務) 石井 晃 (兼務)	松坂 有二 (委託)
環 境 係	大島 臣次 (兼務)	高井総一郎 (兼務)

各町祭礼委員長

西 町	岡村	萬里
南 町	高橋	康治
伊勢町	高橋	利一
中里町	平井	保徳
東谷戸町	大木	勇
西谷戸町	草柳	澄夫

*女性代理

須賀神社33年大祭 本部組織図



○各町祭礼委員長は本大祭を盛り上げるべく各町協力し、連絡しあいつつ事故のないよう最大の注意を掃って行動した。

○救護係として参加下さった方々

医 師	山 崎	豊
看護婦	翁 川	夕 マ
同 上	大 見	容 子

小雨まじりの14日、33年に1度しか目にすることができない奇祭「行合祭り」が、葉山町一色で始まった。

「デート」

男女2基神輿
葉山「行合祭り」

33年に1度の



葉山町一色海水浴場で行われた「行合祭り」

神奈川讀賣

読売新聞社提供

セイヤツ、セイヤツ。ウリヤ、ウリヤツ……。威勢のいい声とえらわれている。共に元気な神輿が二基、砂浜へ降りてきた。下で待つ別の二基は、何やら静かで奥ゆかしい。それもそのはず。須賀神社(逗子市小坪)の祭神・須佐之男命が、三十三年に一度だけ、森山神社(葉山町一色)の祭神・奇稻田姫命に会いに来る姿を表したのが、この祭りだ。千と一つ。久方ぶりの出合いを果たした二基の神輿は、きょう十五日も町内を回り、須佐之男命の方は、十六日に須賀神社に帰って行くという。



1996.9.14(土) 午後1時頃 葉山一色海岸
 1996.9.15(日) 神奈川新聞
 <一色海岸>

葉山方のみこし(左)と33年ぶりに再会し、練りを繰り返す小坪方のみこし
 =葉山町の一色海岸

葉山一色海岸にて 神奈川新聞社提供



男神輿(向こう側) 女神輿(こちら側)
 仲よく並んで神事を待つ



33年ぶりに一晩の逢瀬

返子市小坪の須賀神社と森山町の森山神社を結ぶ「三十三年大祭」が十四日から始まった。文字どおり数え年で三十三年に一度しか行われない珍しい祭り。須賀神社の男神 佐之男 命すさのおのみことと森山神社の女神(奇稲田姫命きいなでひめのみこと)が、この時だけ出会うという言い伝えがある。男神を祭る神輿(みこし)は約三時間かけて葉山へ。一色海岸で待ち受けていた女神の神輿と久しぶりの再会。は二〇二八年

会を果たすと、担ぎ手たちは威勢のいい掛け声を上げて、祭りは佳境に。
 二台の神輿は二晩、森山神社に並べられ、十六日には葉山の氏子によって小坪に戻される。次の逢瀬

勢原温泉
 好評のダンスホールで、
 健康に ニュー **天野屋** フレッシュ!
 天然温泉。 ☎0463(95)
 〒259-11 神奈川県伊勢原市西富岡1067 021744

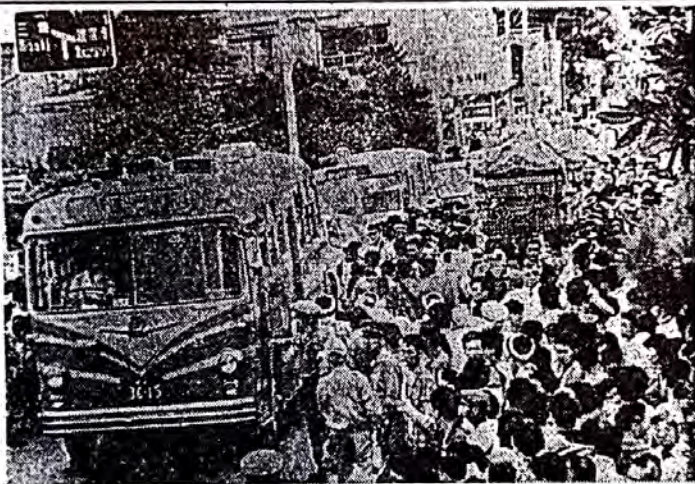
TODAY

葉山町の
森山神社

33年に1度の晴れ舞台

今秋、盛大に神婚祭開催

葉山町一色の森山神社の伝統行事として、数え年三十三年に一度ずつ開催されてきた神婚祭が、今年秋にも行われることになり、関係者が準備を進めている。逗子市小坪の須賀神社の祭神・須佐之男命(すさのおのみこと)の妃が、森山神社の祭神・奇稻田姫命(くしいなだひめのみこと)となっており、須賀神社のみこしが森山神社を訪ね、「夫婦水入らず」の一時をすごすもので、三浦半島でも唯一の珍しい祭りとなっている。



1964年に行われた前回の神婚祭の様子(葉山町内でのパレード)

森山神社の氏子総代会長の鈴木喜一郎さん(左)の話では、神婚祭は森山神社では大祭として取り組み、須賀神社では行会祭の名称で行っている。前回は一九六四年の九月十三日から十五日にかけ、両神社の氏子の主催で開催された。十三日朝、須賀神社を出発したみこしは小坪地区を巡った後、車で葉山入り。芝崎海岸あたりで森山神社の氏子らの出迎えを受け、夕方、森山神社に到着。神社に奉納後、一色地区を巡回する

などし、十五日朝に出発して須賀神社に戻った。それぞれ五百人ぐらいずつが参加し、みこしパレードはほこや山車も含めて自動車十五台で展開され、小坪では「地域中が留守になつてしまう」といって盛大に繰り広げられた。元来、両神社のみこしがランデブーしていたが、森山神社のみこしは暴れみこしとして問題になったため江戸時代末期に埋められてしまい、それ以来、みこしは須賀神社のものだけになってしまった、という。

今回は、両方の氏子代表らが中心となって九月十四日から十六日にかけて開催することを決め、準備を進めている。鈴木総代会長は「今回は、当方もみこしを新調し、より盛大なものにするよう氏子に協力を呼び掛けていく」といい、同町教育委員会でも「無形文化財的な側面を持つので協力できれば」と、祭りに関する資料集を進めており、文化財の専門家らの意見を基にした提案も行うことになっている。

神奈川新聞社提供

渡 御

小雨の降るなかを（午前10時）、小坪須賀神社の神輿を先頭に葉山森山神社に向けて出発する。行列の順序は先導車、各町の囃子車（西町、南町、伊勢町、中里町、東谷戸町、西谷戸町）鉾・榊・宮司・救護・本部車両と続き総車両数13台。この外に観覧の人々を乗せたバスが18台と雄しく雄大というか、壮観であった。小坪から葉山にむかった人達は全部で1,500人以上と予想される。

途中、逗子市役所前にて市長である平井義男氏のご挨拶があり、小休止のあと、再び葉山に向かう。

一色海岸に男・女神の神輿が仲よく並んだところ
そして祭事が執り行なわれた





須賀神社の神輿と森山神社の
神輿が並んだところで……
一色海岸での神事

▲八雲神社宮司小坂周防氏

▼森山神社宮司守屋大光氏





小坪を出発



金杖の先導



市役所前にて



一色海岸にて



9月15日の一日（葉山町内）

一日中葉山町内は賑わった。

小坪の神輿を担ぎ、葉山の復元された神輿を担ぎ祭礼も一日中盛大に行なわれた。

下の写真は小坪の神輿を担ぐ、葉山森山神社の氏子達。





復元なった森山神社の神輿を担ぐ若い衆



還 御

葉山の氏子達に担がれた、小坪の須賀神社神輿が木遣りの声とともに小坪に還ってきた。神事のあと小坪の氏子にひきつがれ、社殿に納まった。



▲葉山から還ってきた須賀神社神輿

▼須賀神社の神輿を担ぐ葉山の氏子達





小坪天王浜にて「想出」の1シーン



別れを惜しむ

9月14日・15日・16日の3日間にわたる33年大祭もいよいよフィナーレの時
がきた、逗子マリーナのプールで小休止をした葉山氏子達は午後4時頃帰路に
つく。

今度会うのは西暦2028年とか？

だいぶ先のことになる……別れを惜しむ人達であった。



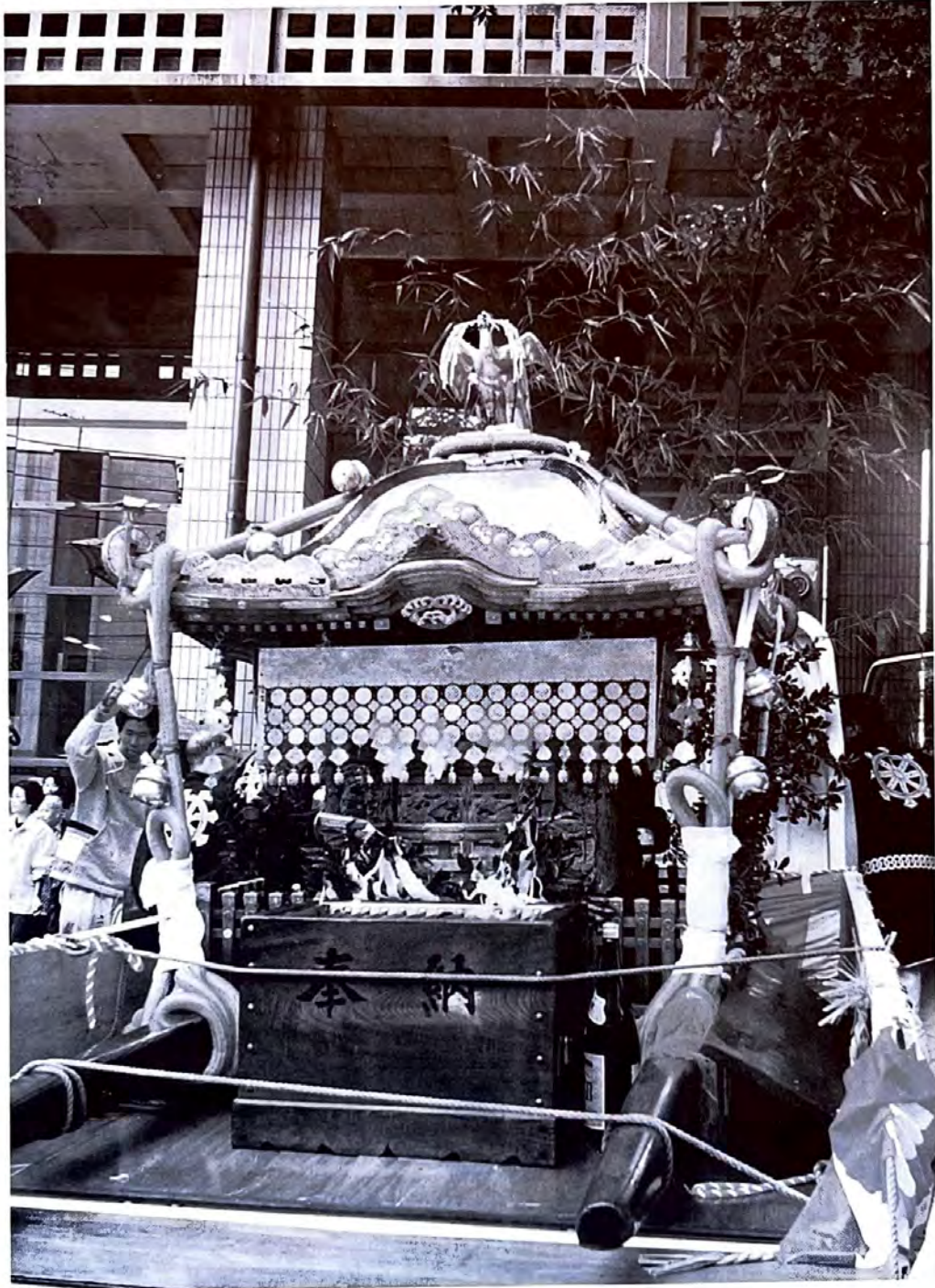
葉山の氏子達

小坪の氏子達といつまでも何時までも別れを惜んで手をはなさなかった。
また会う日を胸に抱きつつ。



特 集

- | | | |
|----|-------------------------|---------|
| 1 | 小坪区長 あいさつ | 岡村 錦一 |
| 2 | 小坪小学校長 夢とロマンに満ちた伝承文化 | 金子 成八 |
| 3 | 逗子市交通安全協会小坪支部長 交通事情を慮って | 広瀬 隆 |
| 4 | 逗子市消防団第七分団長 33年大祭の思い出 | 大木 展生 |
| 5 | 小坪商栄会長 33年大祭を顧りみて | 松井 純二 |
| 6 | 八雲神社宮司 33年大祭の思い出について | 小坂 周防 |
| 7 | 神輿担当責任者 33年大祭をふりかえって | 岩本 勝己 |
| 8 | 天王唄担当責任者 天王唄係として | 高橋 二郎 |
| 9 | 天王唄指導者 33年大祭と天王唄 | 草柳 益一 |
| | | 高橋 正義 |
| | | 平井百八郎 |
| 10 | 各町祭礼委員長 33年大祭を顧りみて | 西 町 |
| | | 南 町 |
| | | 伊 勢 町 |
| | | 東 谷 戸 町 |



区長あいさつ

小坪区長 岡村 錦一

平成3年の春に葉山町森山神社氏子会より4年後に迫った行き合い祭の行事を小坪ではどうされますかとの連絡を頂き早速、区会役員と氏子総代会と相談しました結果、伝統ある大祭なので是非とも継続しようと意見が一致しました。平成3年12月4日小坪会館で区会役員、小坪氏子役員、森山神社役員との会合を待ち、平成8年9月に33年大祭を行うことに決定致しました。その後「区会と氏子会」の会合を度々もち合同の祭礼本部が設立され、各町内にも祭礼委員会が同時に設立されました。

それから祭礼に必要な資金集め、また各種の問題に関しては、各町祭礼委員会の皆様にご指導を頂き、小坪区民の皆様の資金援助を受けました、お蔭様で昨年9月14日より3日間に亘る大祭を盛大に行うことが出来ました。

なお、小坪住民の方々の送迎の折には安全協会のご尽力を受け、また、16日還御の当日は、市長婦人を始め小坪婦人会、小坪漁業協同組合婦人部、小坪商栄会の婦人部、の皆様大変お世話になり、無事に大祭を終わりましたことを区の役員を代表し、厚くお礼申し上げます。



中央が筆者

夢とロマンに満ちた伝承文化 —— 須賀神社33年大祭 ——

小坪小学校長 金子 成 八

夏休みが近づくとつれて、「今年は、小坪で33年に一度の盛大なお祭りがある。住民は大変盛り上がっているよ。」という声を多くの人から聞くようになりました。

私は、大祭についての知識がなかったため、地域の方に教えていただいたり、資料を調べました。また、須賀神社をのぞいて見ました。

中には神輿があり金色の鳳凰鳥が止まっていた。見とれていると、伝承文化の豊かさが伝わってくるような気分になってきました。

2学期の始業式では、「今聞いたのは、太鼓と横笛のお囃子です。聞いていると、なんだかうれしい気分になってきます。小坪には33年目毎に行われる…私も9月14日には、めずらしい小坪須賀神社と葉山の森山神社33年大祭を見たいと思っています。」と、話していました。



交通事情を慮って

逗子市交通安全協会小坪支部長
広瀬 隆

小坪の地にお世話になって約40年になりましたが、33年前の大祭の記憶を再び蘇らせ今年の大祭の安全協会としての参考の一助と致しました。

前回の大祭が現在と大きく違う条件の第一は交通事情であったと思います。即ち、道路の形態、交通量、人口密度、であり、こうした状況の中でどれをとっても比較的円滑に進みました。

前回は葉山の真名瀬海岸の一部埋立地に到着する迄海岸線経由で無事に到着し、そこから森山神社迄予定どおり終了したことを覚えておりました。

さて、今回は当然諸事情が大きく違い苦慮しましたが、逗子・葉山の両警察署、並びに両安全協会の配慮と協力を頂き、それに加えて逗子市、葉山町のご理解で無事に大過なく交通関係の分担を果たせた事について厚くお礼申し上げます。

一生に二度も大祭の行事の一端を勤めさせて頂いたことを深い喜びと誇りにさせて頂き感想に替える次第です。



33年大祭の思い出

逗子市消防団第七分団長

大木 展 生

平成8年7月恒例の祭り及び小坪最大の行事である9月14日から16日の33年大祭も盛大に行われ大成功に終わりました。役員皆さん御苦勞様でした。

それに葉山森山神社の立派な女神の神輿ができました。これも役員皆さん大變でしたと思います。私も町内から大祭に出ましたところ、各町内では葉山へ向かう山車をそれぞれ工夫されておりました、また、スケジュールの作成におわれた役員始め皆さんの協力を願って当日へむけ進んでいきました。

14日は生憎の雨模様でしたが御用邸の前あたりから晴れ間も見えてまいりました。

小坪の神輿は一色海岸で待ち受ける葉山森山神社の女神との33年目の対面とあって儀式は盛大に行われました、その時は感無量でした。そして一色海岸より森山神社までの沿道は人で埋めつくされ、祭は頂点に達し神輿も無事に神社に納められました。

今宵はゆっくりと夫婦の一夜を過ごすことでしょう、明日15日は葉山でにぎやかに色々な催しがくまれているそうです、16日は還御ということで天気にも恵まれ小坪は祭り一色に染まり町内は燃えて燃えて燃え尽くしたという思いがしました。

こうした行事はいつまでも後世に残し、引き継いでもらいたいものであります。

最後になりましたが関係の皆さん大變御苦勞様でした。

33年大祭を顧りみて

小坪商栄会長 松井純二

須賀神社「33年行合祭」の成功おめでとうございます。

14日の渡御は朝から雨でしたが葉山へ向かう小坪の皆さんの気持ちにおされるように雨も止み無事森山神社へ到着した。

そして、16日の還御は準備をされた区会、氏子の皆さんの気持のような晴天の中、葉山、小坪の皆さんが一体となり小坪が祭伴天で埋めつくされた様子には圧倒されました。

私は前回の33年大祭は今の息子と同じ29才で神輿を担ぎ葉山まで行った思い出がありますが今回はその時以上の盛り上がりで参加できたことを嬉しく思います。

そして次回の大祭では囃子の子供達が40代、50代になって子供と参加することのできる行合祭であって、そんな時間が含まれている祭だろうとおもいます。

葉山町、各町内、の皆様には関係機関との連絡や交通方面などとの打合せなど大変だったと思います。

区会、氏子の皆さんの努力あつての大成功だとおもいます。

最後に、区長、氏子総代会長、役員の皆様誠に有難うございました。



33年大祭の思い出について

八雲神社宮司 小坂 周 防

平成8年9月14日小坪須賀神社と葉山町一色の森山神社との33年目毎に行われる大祭が目出度く執行されました。昔からの伝統神事が絶える事なく今日も継続され、その時の時代背景を持ちつつも斉行されておりますことは誠に有意義なことであります。

今度もまさに町を上げてのお祭りとなり、それぞれお役の方々におかれましてはさぞや御苦労された事と存じます。盛大に執り行うことができましたのも偏に総氏子崇敬者の御協力の賜ものとぞんじ、神社側として感謝申し上げる次第で御座います。

この神事前回は、昭和39年9月13日に行われ、その前は昭和7年8月21日に、

その前は明治33年9月5日に行われました。

須賀神社の須佐之男命「男神」が森山神社の稲田姫命「女神」を訪問す行合祭であり、夫婦神であるから33年目毎にお宿りに行くのだとする土地の人々の信仰であります。「相模風土記」森山明神社の頃に「33年に当たる年は11月13日、小坪村天王神輿を迎え、14日に神楽を奏し、当日鶴岡社人伶人八乙女等来て管弦を奏し、二神輿を担ぎて海岸に至る。是れを神忌という。」とあり、また「三浦古尋録」には、「此の守山明神ノ祭礼ハ33年目毎也。此祭礼ノ例ニヨッテ小壺村ノ天王ノ神輿ヲ借用ルトナリ。祭礼神輿ニ札ヲ張、今其34枚有、此札年来ヲ数レハ、文化壬申年迄1122年ニナル。」とあり、この祭の古い伝統を物語っております。

33年目という年代の起源は明らかではありませんが、神霊が新たに甦がえり、神威を増す、それを確認する信仰が33年目の大祭として厳修されているのです。

相模風土記に「これを神忌と云う。」とありますが、まことに神秘的な古代からの祭です。この須賀神社の特殊神事が町の誇りとして後世に受け継がれて行きますよう念願する次第です。

33年大祭をふりかえって

33年大祭神輿担当者 岩本 勝己 (南町)

私は平成7年10月から南町区会理事の大役を受けて、33年大祭の諸準備などのため役割分担が決められておりましたが、33年大祭のお神輿担当者として氏子総代長から指名を受けました。その時は、自分の頭の中が津波のように揺れ動き心配事の始まりでした。さて、33年大祭当日9月14日の朝は大変冷たい雨と風でした。その中をお神輿が町内の巡行を終えて葉山町へ出発すべく準備を小坪会館で済ませると緊張したためか口の中はカラカラに乾きました。と申しますのもこれからの3日間においてきちっと役割が果たせるかどうかでしたので。

初日葉山町へ到着し、短時間でお神輿を組み上げ、立ち上げることが出来た時、そして、手締めを行ったときは大変な緊張でした。

でも、自分では何とか大役が果たせたかなと、いま勝手に思っております。

このような機会を与えて下さり今では大変嬉しく思っております、そして、一生の思い出となりました。皆様方本当に有難うございました。



ろ屋駐車場での神輿立上りの際の手締め

天王唄係として

天王唄担当者 高橋二郎（西町）

33年大祭のとき小坪区会の理事をしていたため、7月の例祭と、33年大祭の天王唄係を担当させられた。例祭では今年氏子、区会の中で天王唄大会を催す話が出た。小坪に伝統あるこの唄を伝承する意味で素晴らしいことだと思いました。7月の例祭のときは各町内では5月頃から練習を続けておりました。そして各町美声の方が6名で唄の競演をして、大いに大会を盛り上げる事が出来ました。

天王唄は祝い事の行事の終わりにしめる唄として歌われていた。

若い頃より祭好きのためか、小さい時には先輩に連れられ、海岸に出て沖に向かい声をからして仕込まれた事を思い出します。

33年大祭に際し葉山では神輿が新調され、その合体が実現出来るとのことで大変な意気込みでした、葉山から若い衆が数人小坪に見え神輿の担ぎ方とか、天王唄のルーツを説明したところ皆さん感心しておりました。

33年大祭の当日は雨に見舞われ、小坪を一周りし、逗子市役所前で市長の挨拶がありました。そして、各町の屋台・神輿・榊・鉾等を連れ、天王唄をテープで流しながら葉山へと向かいました。葉山町のろ屋駐車場に神輿を安置し、休憩し、神輿を井桁に組込み、一色海岸で待つ女神に会いに行くことになった。

神輿係の声で若い衆が担ぎ始める、そこで「目出度、目出度の若松様よ枝も栄える葉も繁る」マイクを通じて観衆の前で歌う。この第一声は私の生涯忘れ得ない思い出として残りました。

神輿の廻りに西町・南町・伊勢町・中里町の歌い手が付き提灯を掲げた町内の者が歌い、次に渡すという形態で行った。

ろ屋の駐車場を出て歌い手の人に守られながら小坪の神輿は海岸へと向かった。

海岸では小坪独特の神輿の降ろし方を披露した。

数千人の見物客の見守る中二基の男女神輿が仲よく並び海岸にて神事が執り行われました。

それから両神輿は、両氏子に見守られながら森山神社へと向かった。

15日は男女神で葉山を練り歩いたそうです。

16日の還御の時は木遣りに送られ、拍子木の合図で神輿納めを拝見し感心致しました。

次の逢う瀬は2028年。今回の33年祭に天王唄係という大役を受け無事終了出来たこと、これからも「天王唄」を小坪の伝統文化の唄として、後世に伝えるべく歌い続け伝承していかなくてはならないと思います。



33年大祭を顧みて

西町祭礼委員長 岡村 萬里

33年大祭は西町が当番となり、屋台としては先頭に行くことになった、誠にお目出たいことである。

その屋台であるが西町には優秀な技術者が多いので助かります。

一例をあげれば「長沼進・井榊忠男・安田道康・稲葉鉄夫」の面々となる。そして、話をしてから短期間に一台の立派な屋台を仕上げて頂いた。その内容は例祭に使用する山車と少しも変わらない程のものでした。

此の屋台で葉山まで行くとなるとさぞかし気分がよいのだろうと思いました。

逗子市役所前では平井市長の挨拶がありました。

その後数十台の車は一路葉山へ向け出発しました、午前11時頃葉山一色海岸での33年目の神事には感銘を深くした次第でありました。

「夫婦神揃いて行き合いお目出とう」…厳粛な一ページとなった。

須賀神社・森山神社の両神輿を森山神社に預けて数時間後葉山町を後に小坪へ向け帰路につきました。

16日還御の日はすっきりと晴れ上り暑い位でした、当日は葉山町からバス数十台の人達とお囃子・木遣りで小坪の神輿を送ってきました。丁度西町が当番でしたので間中医院前まで迎えに出ました。

それから、天王浜にて一、二時間でしようか皆で神輿を担ぎ一段と意気盛んなものがありました。

午後の三時頃逗子マリーナのプールサイドでは、両氏子が楽しいひとときを過ごし四時頃葉山町の人達は別れを惜しみながら帰路に着いたのです。

33年大祭も幕を閉じましたが当番町として意義ある三日間でした。

小坪須賀神社
葉山森山神社

33年大祭について

南町祭礼委員長 高橋 康 治

33年大祭を記念に南町では織旗を新しく作り立派になりました。南町内の皆様のご協力のお蔭です。そして、大祭準備委員会を作りました。

私は今回の大祭は三回目です、人生にとってこんな嬉しいことはありませんでした。

今回の大祭は小坪始まって以来一番賑やかでした。

私が葉山にいきましたときに、町民の皆様から小坪の神輿の担ぎ方、天王唄が大変素晴らしいと褒められました。

南町の白衣の絵も褒められました、多くの方が写真を撮っていました。

葉山一色海岸での昼食時にも準備委員の協力により、他町の人からも褒められました。氏子の役員及び小坪区会の皆様本当にご苦労様でした。



向かって左側が筆者後方は南町の屋台 (平成8年9月14日葉山駐車場にて)

須賀神社
森山神社 **33年大祭を顧りみて**

伊勢町祭礼委員長 高橋利一

月日の立つのは早いもので、木枯しの吹き荒れる候となりました。

あれから三ヶ月余、小坪の街も平静をとりもどしました。顧りみますれば平成七年須賀神社祭礼に際し、伊勢町では次の方々を役員に選びました。

祭礼委員長	一	柳	和	夫
副委員長	高	橋	利	一
同上	勝	島	一	雄
書記	山	下	善	雄
会計	一	柳	市	郎

上記の者が平成8年須賀神社ご祭礼及び33年大祭にも継続されることになりました。

然しながら訳あって、急遽私が委員長に一人の副委員長に山下さんになって頂き、理事の岡本征司、篠田実両氏の協力を得てスタート致しました。

毎月の氏子委員会の議事を其の都度町内の皆様に報告する為、漁協にお願いして会場を拝借し、利用させて頂き感謝しております。

伊勢町内の皆様のご意見等色々ご座居ましたが、町内委員会は前委員長の方針どおり各家庭の割当て募金は行わず町内手持ち金祭礼の寄付金等で賄うことになりました。

なお、翁川与助・常磐音吉・高橋清・一柳福太郎・一柳健三・山下富男氏の各委員、役員経験者並びに天王浜会会員の皆様のご支援のもとに着々と準備がすすめられました。

なお、接待係のご婦人連の活躍も見逃す事は出来ませんでした。男性では気付かぬことも木目細かい配慮で解決いただきました。正に町内老若男女一丸となって33年大祭に取り組んでまいりました。

大祭当日の大盛況は皆様ご存知の通りです。ご寄付も夏の祭礼の二倍近く奉納され、記念品も足りなくなる程のうれしい悲鳴でした。

次の33年大祭は平成40年「2028年」とか、毎回閏年、ゆっくり天国で眺める事と致しますか？

ご町内の皆様方に感謝しつつペンを置きます。

小坪須賀神社・葉山森山神社 33年大祭を振り返って

東谷戸祭礼委員長 大木 勇

1年半の準備期間の後、去る9月14日より16日の三日間、33年大祭は事故も無く、たいした問題も無く盛大に、そして厳粛に執り行われましたことは、氏子総代会長、区長をはじめ関係者の皆様方の忙しいなか、私事を顧みない尽力の賜と深く感謝致します。

私も病氣療養中一ヶ月毎に準備会議の進行状況の報告を受け、大祭の成功を祈念し、東谷戸町でも他町に負けないよう大祭をめざしての協力方を会員の皆様にお願ひしました。

幸い会員も増え、準備に熱が入り、また、子供達に依る囃子・太鼓等も14年目にして一昨年より高橋「笛正会」会長を師とし、特訓を重ね立派にその任を果しました。

須賀神社は「須佐之男命」を祭神として崇める神社なのでそれを汚すような祭礼のやり方は厳に謹むべきであり、伝統的なものを忠実に守っていくようにするのが私達の責任ではないでしょうか。

私の希望の一端を述べ、おわりになりましたが「小坪須賀神社・葉山森山神社」33年大祭の成功を心より御祝いするものであります。



33年大祭を顧りみて

天王唄指導者 草 柳 益 一（南町）

今年行われました33年大祭は私にとりまして、3回目を迎える事が出来た慶ばしい事であります。此の意義ある祭りになくてはならないものが、天王唄と太鼓、笛、鐘による囃子です。

太鼓によるお囃子は各町内とも子供さん達が毎年練習され後継ぐ人がおりますが、天王唄を歌う人が年々少なくなりました。そのため夏の例祭の時でも大変苦労していると思いました。

特に、33年大祭では森山神社へ行く事でもあり、本部役員始め各町内とも祭を盛り上げる事と後世に引き継ぐために天王唄の練習を始める事になりました。

南町でも若い人達が先にたって練習を始めました。練習の指導をとの依頼がありました。教えることにより若い人達の希望を受けました。祭の大好きな私も皆と一つ心に燃え上がり、祭を盛り上げて行く事が出来ればと歌い方囃子方を教えました。

また、言葉の間合いや、コロの入れ方など私なりに一字一字にコロの入れ方などを記入した譜面を作ってみました。

2回、3回と回を重ねる毎に大分声も出るようになりました。

氏子総代会の発案で夏祭りのお旅中各町内により天王唄のコンクールが行われ、私達の町内も日頃の練習の成果を出して頑張りました。楽しい思い出の一つになりました。33年大祭には練習を積んだ大勢の歌い手が声を張り上げ祭りを盛り上げることが出来ました。

これからも毎年の祭りに参加して由緒ある天王唄を後世に歌い継ぐことが出来るよう願っています。

天王唄

- 1 目出た目出たの若松様よ、枝も栄える葉も繁る
- 2 谷戸を今朝出て四町内を廻る、四町内の氏子が出て拝む
- 3 何時も変わらぬ山田屋の前は、昔は淀川船が着く
- 4 西へ曲がろか南へ行こか、ここが思案の下の橋
- 5 此処のお角を曲ろじゃないか、小坂天王に会いにゆく
- 6 小坂天王が門いりなさる、おもて番所でうらご門
- 7 南のぼりは何処でも知れる、榊おんべんお神酒鈴
- 8 南をあとにしてなぎとを渡る、晩にゃ西町で日をくらす
- 9 姉もさしなよ妹もさしな、同じ蛇の目のからかさを
- 10 こぼれ松葉をあれみやしゃんせ、枯れて落ちてても二人ずれ
- 11 船の新造と女子の良いは、人が見たがる乗りたいがる
- 12 船も出もせで柱を立て、二度の想いをさせやがる
- 13 沖のかもめに汐時きけば、私しゃ立つ鳥波に聞け
- 14 富士の白雪朝日でとける、娘島田は寝てとける
- 15 赤い布をかけ島田のうちは、何故か心が定まらぬ
- 16 安芸の宮島廻れば七里、浦は七浦七えびす
- 17 さても見事な小田原つつじ、もとは箱根の山つつじ
- 18 笠を忘れてするがの茶屋へ、空が曇れば思い出す
- 19 高い山から谷底見れば、うりやなすびの花盛り
- 20 ままよままよでこれまで来たが、もはやままよじゃおかれない

33年大祭と天王唄について

天王唄指導者 高橋正義（東谷戸町）

33年大祭に当たって天王唄を教えるようにとのことで不肖ながらお引き受けしました。

今更ながら感じましたことは、唄える人が如何に少なくなったかという事と習おうとする人も又少なくなった事です。「カラオケ」全盛の時代とは言え、氏子会並びに東谷戸、伊勢町、の方々に多く歌える人が増えましたことは嬉しい事です、小坪では既に歌われなくなった唄が幾つもあります。

残っている唄に「天王唄・舟引き唄・小坪甚句・餅搗き唄・子守唄」等歌える人が居る間に後継者を作る事が急務でしょう。役員の方々は大変でしょうが率先して修得なされます事を念ずる次第です。

特に天王唄は御輿の担ぎ方と一致して「ハーヨイ」「ヤンデー」「ソーロエ」をリードするものですから多数の方の修得をお願いします。又、お囃子につきましても少子化の影響で東谷戸以外の町内では太鼓を打つ子供が非常に減っています。

少ない子供達に如何に習って貰うかも考えるところでしょう。



33年大祭に参加して

天王唄指導者 平井 百八郎 (東谷戸町)

昭和7年、昭和39年、平成8年と33年大祭を3回迎えることが出来て喜んでおります。

昭和7年は3才でほとんど何も覚えておらず、昭和39年には、囃子掛かりで参加はしたがなぜか葉山へ着いて2時間位居てすぐ戻ってきてしまいましたので葉山のことは何もわからずじまいでした。今回は西町より天王唄の指導を頼まれ、数回に渡りお互いに勉強をし、また、7月の須賀神社の祭礼の時には天王唄の審査員をさせて頂き、そして、33年大祭の当日には、天王唄係となり、一方では西町の囃子担当として忙しいおもいはしたけれども最後まで家族、孫達を含め充実した祭りが出来ました。

前回とは違い今は「ビデオ」の時代であり、何時でも見る事が出来一つの良い思い出が出来た事を西町並びに氏子祭礼役員の方々に深く感謝致します。

今後は、私の様な者の唄でよければ後輩の指導をしていきたいと思っております。



左側から3人目筆者・1人おいて 草柳益一氏いずれも天王唄指導者

座 談 会

開催日時 平成8年12月18日午後2時

開催場所 東谷戸会館 会議室

委員出席 6名

テ ー マ 33年大祭を語る

草柳……33年大祭も無事に終わり、有難うございました。

現在11名の編集委員で記録誌を作成中ですがそのなかで地域の皆様のお話をお聞きして参考に致したく座談会を開催したわけであります。始めに編集委員長の岡村からご挨拶をお願いします。

岡村……只今ご紹介ありました、岡村です。

師走を迎えなにかとお忙しい中をご参集戴き誠に有難うございます。この度の「33年大祭について何か記録を残したらどうかと、いうご意見もあり司会者が申したとおり33年大祭記念誌を作成中であります。その一かんとして皆様のご意見なり、お話なりをお聞きして参考に致したく「座談会」を開催したところです。

何でも結構ですのでお話を戴ければ幸いに存じます。

草柳……皆様の地域でのご活躍は存じておりますが、失礼ですがお名前を存じあげない方もおりますので自己紹介をもっていきたいと思ひます。



三十三年大祭を語ろう 東谷戸会館

草柳……先ず編集委員長の岡村です・次が委員で氏子総代長の一柳・同じく氏子副総代長高井・副区長の根岸・南町祭礼委員の常盤です。失礼ですが出席者の皆様お願い致します。

南町の本田福太郎です、同じく南町の本田末子です。もうひとつ方お願い致します。

現在、笛と太鼓の師匠をしております東谷戸の高橋です。

草柳……本日はこれだけの人数ですのでかしまらずにポイントを掴んで話し合っていきたいと思えます。

岡村……只今司会者が申しましたとおりざっくばらんなお話を頂戴いただければよろしいかと存じます。

始めになりますがお祭りには囃子がつきものですがこのへん如何なものでしょうか？

高橋……お祭りについて先ず申しあげたいことは、33年大祭には下番制度が無いということです。

その昔祭の形態が変わった段階で伊勢町では保存会なるものを作って囃子を中心にお祭りを行ったことがありました。

各町は保存会を作ったが西町だけは地区全体で考えるべきであるとして保存会は作らなかった。

草柳……私達にはお祭りに関しては無知な点もあり、神輿を担ぐにも前の人が抜ければその後を担ぐということだけは知っていました。

現在4町内で持ち回りで祭礼を行っているが、これでよろしいのか、又新しい考えがあるのかその辺りを聞かしていただければと思えます。

高橋……ただいまの草柳さんのご意見ですがこのままでよろしいと思えます。

一柳……祭礼の原則を守るとすれば各町内で行うことが必要であろうが、現状では無理であろう。

高橋……古来から小坪には色々な唄が存在したが歌える人がいない、例を挙げれば「舟引き唄・舟甚句・鋸唄・唄い初め唄・天王唄」等であるが、現在歌われているのが「天王唄」だけである。

本田（福）…天王唄のルーツはなにかといえば一つ労働歌であったと言われております。

高橋……天王唄はまさしく労働歌であったというのは、故大仏次郎もかつては小坪にきて天王唄を聞いてそう言ったということでした。

一柳……天王唄は材木座で多く歌われていたものである。

本田（末）…昭和7年の時が丁度5・15事件であったのでその時の33年祭は学生であったがなんとなく覚えております。

本田（福）…今回の33年大祭の記録も大事ですが、過去における33年大祭の記録も残したらよろしいと思います。

草柳……一つの思い出として新倉さんが底なし屋台のことを書かれておりましたがそんな屋台があったのでしょうか？

本田（末）…氏子だよりに書かれている記事を私もみました。

本田（福）…その昔小坪小学校の校長が33年大祭の話をした時には海上を渡ったということであった。一方神輿は山を通ったということである。伝説は面白いことが起こるものですね。

草柳……今の伝承文化では1300年位続いているということですが、果たして如何なのでしょう？

一柳……その昔はこの祭は66年目であったが途中から余りに永いということで33年毎になったという説もあります。

高橋……昭和24年頃の敬老会でお年老の話では「すさのおのみこと」が「くしいなだひめのみこと」を助けたのが33のときであったという説もあった。

一柳……33年というのは人がなくなって33年目の年期をとったともいわれている。

本田（福）…かつて市の文化講座での話によれば神婚祭とは、人間と神とが結婚するということであり、その場所は「厠」であったという。神には年が無かったという。

草柳……時間も少なくなりましたが何かありますればお話しを頂きたい。

高橋……「ともえ」の紋には左と右と、三つともえと二つともえがある。普通は左の三つともえである。

もとをただせば体内の嬰兒であり、まが玉であり、それが「ともえ」となったのであるといわれている。

一柳……小坪の神輿の紋は国宝館の館長から色々聞いたものであります。

草柳……本日は長い間ご苦労様でした。

33年大祭を記念して西町祭礼委員会より「三十三年大祭の詩」が寄せられました。

三十三年大祭の詩

一 目出た目出たの日が昇る 三十三年大祭おあまじ

一 神輿みこしの次女 凜凜しくて小坪出てかう葉山に向う

一 昔なつかし 田越川 今は車ぞかけ抜ける

一 葉山の女神と行き会えば今宵なつかし 三十三年目カミヤに

一 二夜は短しまた会う日まで葉山をあとに小坪に向う

一 小坪の海は穏かに富士も笑顔で神輿を迎へ

一 満天の星輝きて氏子総出て大祭オホまつりを祝ふ

平成八年九月吉日

小坪西町祭礼委員会

た

たのみの舞

天

の舞の舞

稲田姫

葉

山路

田越渡れば森山様が

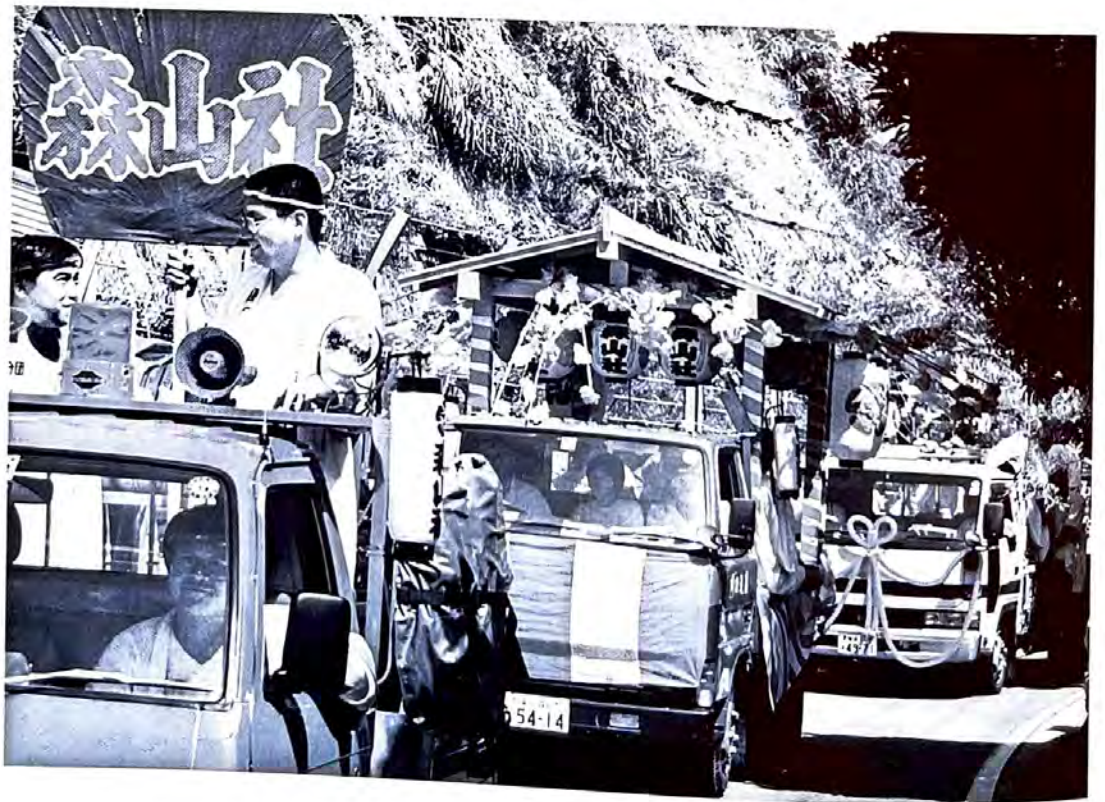
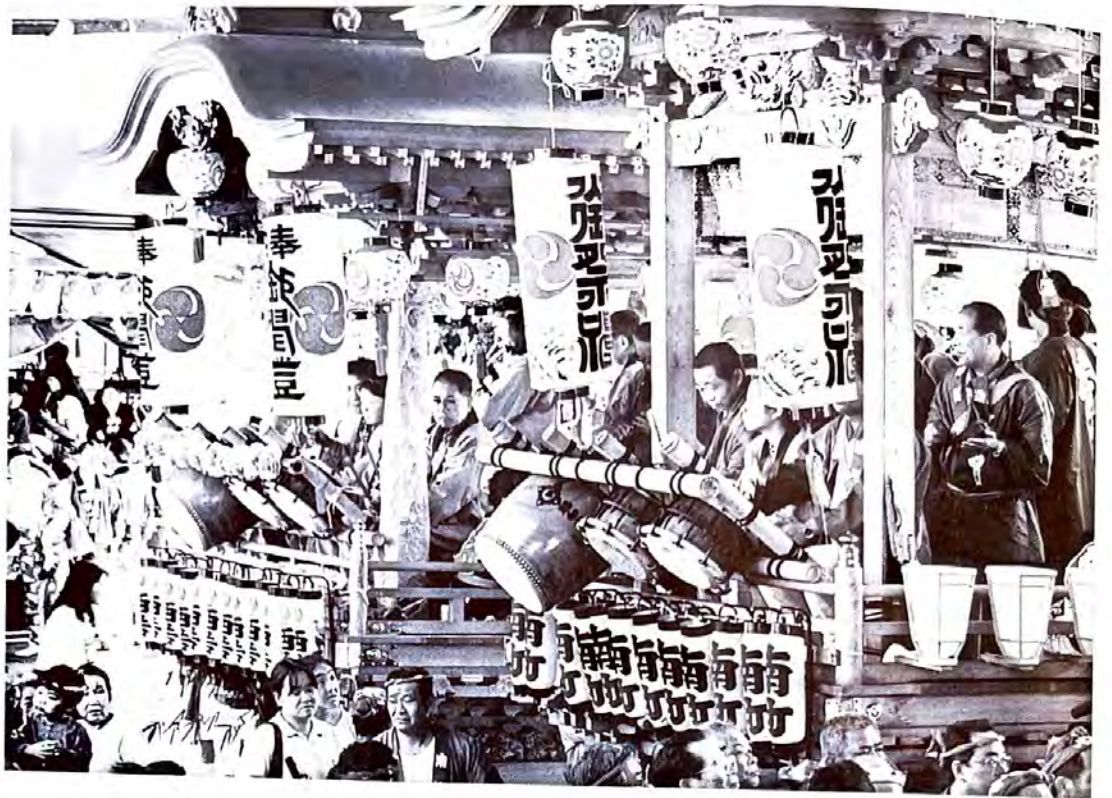
早く早くとおせきたて

早く早くとおせきたて

引けよかり出せ一番太鼓

孫の打ち込み晴れ舞

平成二年九月祭
三十五年祭
笛
正風



第二部 参考資料



須賀神社 絵馬



森山神社 絵馬

33年大祭予算見積書

単位：千円

1. 収入の部

費 目	金 額	摘 要
小坪区会助成	3,300	
寄付金	4,300	
お賽銭	100	
合計	7,700	

2. 支出の部

会議費	50	
通信連絡費	400	
備品	100	
交際接待費	550	なおらい等経費
お供え品費	20	
謝礼費	1,200	手拭・絵馬等
事務用品費	30	
消耗品費	100	りぼん・麻縄等
公租公課	150	保険料等
工事・器具等	250	電気工事費
酒肴費	160	森山神社奉納
飲食費	950	弁当代・鉢払い等
記録保存費	1,400	記念誌・写真等
安全対策費	100	
衛生管理費	30	
車両費	210	レンタカー・バス代等
神輿修理費	800	
各町準備費	300	50000円×6町
雑費	900	ポスター代等
合計	7,700	

昭和39年森山様33年大祭 小坪地区祭典委員

- | | |
|---------|--------|
| 1、牛尾区長 | 3、村田会計 |
| 2、高橋副区長 | 4、松井書記 |

東谷戸 一柳，和田，福本，奈須万五郎，宮崎正次
 西谷戸 福田，安田
 伊勢町 高橋三郎，篠田彦次郎，常盤重吉，和田彌五郎
 南 町 一柳三郎，内野鶴吉，草柳春吉，一柳六蔵
 中 里 高橋徳太郎，大木治二，大木満男，鈴木源三
 西 町 岡村万里，岡村操，岡村清太郎，安田利作
 飯 島 村田正美
 計 29名

内 訳

区会三役	4名
各町理事	15名
各町代表	10名
計	29名

一色神社33年大祭役員名簿 39.4

役 職 名	氏 名
委 員 長	牛尾新蔵
副委員長	高橋福太郎 福本万蔵
会 計	打田 高崎 常盤
書 記	松井 菅原
涉 外	安田 (万) 安田 (兼) 和田 大木 (満)
広 報	一柳 奈須
接 待	高橋 (八) 鈴木宮崎 (正) 草柳
連 絡	大木 (治) 村田 (正) 高橋 (秀) 高橋 (昭) 太田 (三) 山下
警 備	牛尾 (菊) 一柳 (六) 岡本高橋 (忠)
おみこし 責 任 者	篠田一柳 (三) 太田 (政) 岡村 本田城所高橋 (昭) 福田栗本
おみこし 飾 付	山下 (義) 高橋 (直) 池田

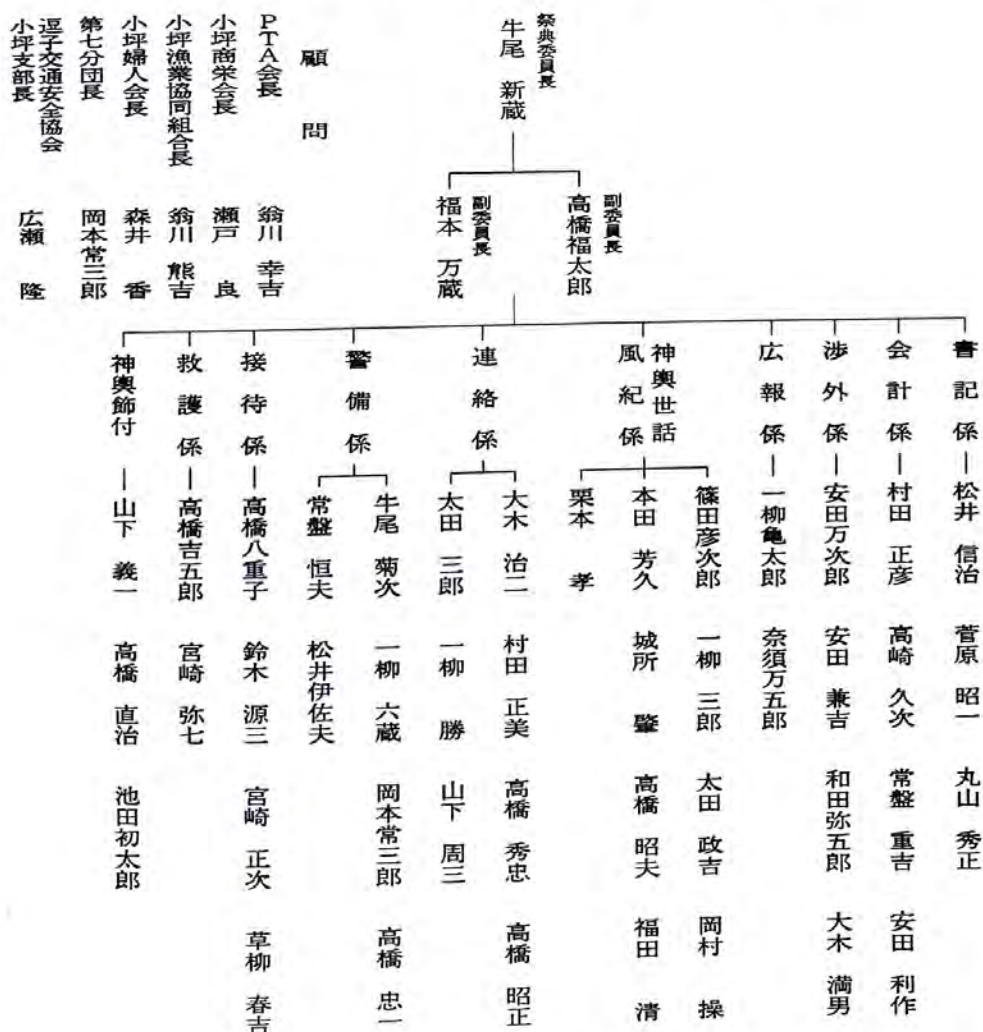
昭和三十一年

昭和二十八年七月

森山様三十五年祭典施設組織

森山三十五年祭典施設委員会

森山様祭典委員編成表



昭和39年

須賀神社・森山神社33年大祭会計報告書

収入の部 438,146円

項 目	金 額	備 考
区会補助金	73,000	
鈴鋼修理積立金	10,741	
寄付金	353,800	
雑収入	875	
計	438,146	

支出の部 369,005円

項 目	費 用	金 額	備 考	
神輿関係費	神輿飾付材料	2,725	ヌキその他	
	祭詞料	10,000	神官2日分	
	鈴鋼修理	16,000		
	晒木綿	1,040	神輿鈴鋼下縮用	
	櫛代	500		
	御供物代	700	掛肴・酒	
	空俵代	200	神輿櫛鉾の固定材料	
	小型トラック代	5,000	神輿櫛鉾運搬用2台運転手共	
	乗用車代	4,000	先導・救護用2台	
	看護婦謝礼	1,000	2人	
	バス代	30,000	6台	
	運転手車掌祝儀	4,000	同上	
	13日間食代	12,150	1人45円×270人分	
	麻及び締縄代	350		
交通費	鉾飾付反物代	1,080		
	修理費	59,830	鈴鋼ホオウ鳥神輿ユウクその他	
	小計	148,575		
	交通費	2,950	委員長以下各委員の連絡	
	小計	2,950		
	消耗品費	役員章	4,336	
		印刷代	3,250	委員分担表、祭典実施要項、祭典申請書
				半紙、墨汁、筆代1,150
		印鑑代	950	祭典委員会印2ヶ
		寄付芳名板代	560	
その他		1,785	真ちゅう磨、その他	
小計		12,031		
通信費	案内状印刷代	1,500		
	寄付礼状印刷代	500		
	封筒代	577		
	葉書代	550		
	切手代	2,450		
	電話料	245		
	小計	5,822		

項 目	費 用	金 額	備 考	
地元賄費	弁当代	58,280	270人神輿飾付朝食用	
及び維持費	酒代	25,000	3 dl入250本	
	酒代	15,000	2 l 30本接待用を含む	
	ツマミ、肴代	10,280	刺身、その他15日用	
	サイダー代	6,930	198本、15日接待含む	
	バス代	5,000	招待者用	
	会場使用料	1,000	小坪寺	
	設備代	4,000	海岸、小坪寺、会場設備	
	シロップ甘露代	1,000	5本接待用	
	葉茶代	400	接待用	
	氷代	515		
	その他	4,350	消防官食事神コップ醤油 模造紙、子杓	
		小計	131,755	
	会議費	会場使用料	2,400	
茶菓食事代		6,887	葉山役員、警察署、小坪委員 青年茶菓食事代	
印刷物配布代		1,500	印刷物配布料	
	小計	10,787		
雑費	謝礼	5,060	酒10本（警備関係団体）	
	〃	2,000	小坪婦人会	
	〃	1,000	紅白幕借料及損傷修理費	
	〃	1,000	六代御前駐車場	
	〃	1,000	駐車場その付近草刈清掃謝礼	
	〃	3,000	神輿金具磨	
	〃	1,400	土俵造、鉾、櫓の自動車飾付	
	祝金	10,000	森山神社落成祝金	
	記念品代	15,950	70才以上老人145人	
	解散式費	15,175	小坪祭典委員解散式	
	印刷費	1,500	会計報告書	
	寄付者名簿			
	灯籠修理代		資料作成費未定（決定次第支出）	
		小計	57,085	
		合計	369,005	

収入支出差引残高69,146円、神社、神輿修理基金として小坪区会において保管します。
上記のとおり決算報告をいたします。

昭和39年11月5日

須賀神社・森山神社33年大祭

祭典委員長	牛 尾 新 蔵	㊟
副委員長	高 橋 福太郎	㊟
〃	福 本 万 蔵	㊟
会 計	常 盤 重 吉	㊟
〃	安 田 利 作	㊟
〃	高 橋 久 治	㊟
〃	村 田 正 彦	㊟

小坪祭礼行事の条件

昭和39年9月13日行われる小坪祭礼行事について、法律第105号「道路交通法」第77条第3項の規定により、次の条件を付する。

記

1. 本行事は主催者および役員自主統制のもとに秩序正しく行い、届出時間を厳守すること。
 2. 主催者および役員は、それぞれわん章又は適当な標識を付し、責任者であることを明示し、責任区分を明らかにしておくこと。
 3. 行進隊形は、4列縦隊とし、1隊の人員はおおむね50名以内各隊の距離はおおむね30メートルとし、道路の左側端を整然と行進し、交通秩序をみだすような行為をしないこと。
 4. 各隊にはわん章等を付した責任者を先頭につけ、その補助者を車両等が通行するがわに位置させ隊列の整理等につとめる。
 5. 行進隊列中の車両は正当な理由なく停車し、または後退するなど、交通の秩序をみだすような行為をしないこと。
- 以上の条件内容は責任をもって参加者全員に周知徹底させること。

昭和三十九年八月二十一日

小坪区会長 牛尾新蔵

逗子市長逗子市観光協会会長
山田俊介殿

須賀神社・森山社例祭挙行についてお願いの件

当小坪地区須賀神社祭神と、葉山町一色地区森山社祭神とは夫婦の神で、三十三年目に当地から葉山に渡御し数日ご滞在のうえお帰りになるのが例になって来ております。

何が故に、また何時の時代から斯様な神事がございますのか明らかではありませんが、少なくとも、本地区住民と葉山町住民との親善に役立って来たことは推察できるのでございます。

また三十三年目に一回という神事に参加できることは、若きは若きなりに、老いなりに健康・長寿の象徴として期待しております。

本年は、ちょうどこの神事が行われる年ではありますが、市道が完備され、オリンピックが日本で開催される年に、この神事が行われることは、住民にとりまして、まことに意義深いことと存じ、且この神事を通じて両地区の住民の親善を増やすことは無論、

地区内住民の親睦・融和を図かる一助になるのも神意に添うものと存じ、次のような日程で行事を行います。

つきましては、神事挙行の趣旨をご賢察のうえ、御賛意を賜わると共に、何分のご援助を頂きたく、またご多忙とは存じますが、ご来駕の栄を賜わりたくお願い申しあげます。

昭和三十九年八月二十九日

祭典委員会

区民各位

祭典について

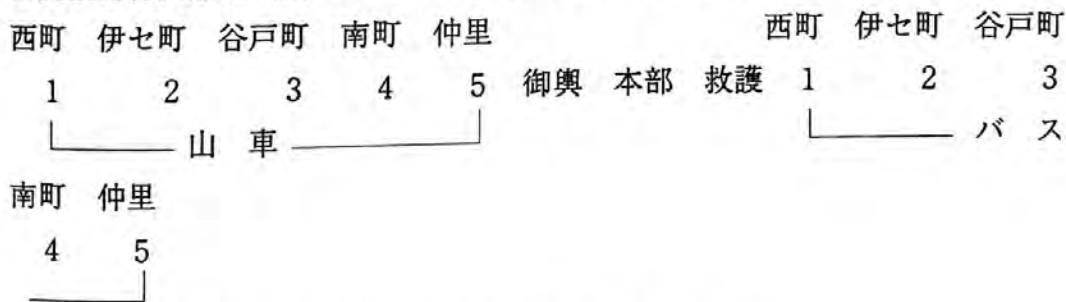
残暑きびしき折柄区民の皆様益々ご清祥のこととおよろこび申し上げます。
さて、森山社大祭もあますところ数旬となりました。各町内とも準備に御多忙のことと存じます。いろいろの都合で決定が遅れておりました祭典運営要項が、今般次のとおり決定いたしましたので御報告申し上げますと共に、皆様方の御援助協力の程一重にお願い申し上げます。

記

9月13日午前6時集合（消防団詰前）祭典委員長挨拶
御輿渡御（小坪区内を次の予定にて担ぎ渡御）

須賀神社前出発（7時）→小坪郵便局前（7時10分）→小坂天王社入口（7時50分）→南町小柴氏宅前折返し→小坪川尻（8時30分）→西町浜折返し（9時）中里岡村健在宅前→（9時10分）→小坪駐在所前（9時50分）→西谷戸秀吉邸入口折返し（10時5分）→東谷戸市営住宅附近折返し（10時25分）→被露山入口到着（11時10分）→逗子駅前到着（11時30分）（機動）→逗子駅前出発（12時）→6代御前広場到着（12時30分）（御輿、山車は機動、人員は徒歩）→6代御前広場出発（12時40分）→葉山真名瀬海岸到着（13時10分）（機動前回と同じ）→真名瀬海岸広場出発（13時30分）→森山社到着安置（15時）（御輿を担ぎ徒歩行列）

御輿渡御行列順序（抽せんにより決定、徒歩の場合も同じ）



九月十五日（祭典委員全員被露山入口にて御輿出迎え）
御輿渡御（葉山よりの供人にて担ぎ、天王浜到着）
被露山入口出発（十二時）小坪天王浜到着（十三時）（受渡後祭典委員より神社に安置）
お知らせ 1. 祭典日のご舞希望の方は、祭典委員会まで。
2. 祭典委員会事務所は、牛尾区長宅です。



昭和39年33年祭南町高崎久次氏所蔵

「三十三年祭の思い出」 南町 高崎久次

前回の33年祭は昭和39年でした。当時は、まだ海岸は埋立てられず天王浜も広びろした砂浜でした。私はこの年南町の町頭として祭に参加しました。当時は現在のような祭礼方式はなく浜四町内（南町、伊勢町、中里町、西町）で祭典委員会を組織しましたが、当時小坪には会館がないため、現在中里町の「子の神社」のある場所に小坪消防第7分団の詰所がありそこを本部として会合を重ね祭礼の準備をしました。各町内の山車はトラックに飾付をしました。南町は既存の山車の足部を切取りトラックに飾付をし、そして葉山へ一般参加者の方はバスで葉山へ私達は徒歩で現地 お神輿は谷戸（現大谷戸会館）までかつぎ渡御し、逗子駅まで車で駅前より逗子本通りを通り六代御前までかつぎ、再び車で葉山真名瀬海岸までそこより森山神社まで葉山の町を練り渡りました。

葉山からは森山神社の氏子により還御されました。葉山の氏子の方々の休息していただく場所は、小坪寺の車裡を使用させていただきました。

昭和7年の33年祭

過去にさかのぼれば何千年が前となるのでここでは昭和7年と昭和39年に執り行なわれた33年大祭についてかいつまんで話してみよう。



「昭和7年33年祭西町の海岸で」 写真 西町 伊藤富士子氏所蔵

33年大祭の思い出 東谷戸 平井百八郎（南町出身）

3~4才の頃と思う、お祭りの数日後記念写真を撮る事になったが金棒を無くしてしまい、金棒なしで写真を撮った記憶がある。それは、金棒を無くしてしまった為に母親におこられた為に特に強く残っているものと思う。少し大きくなってからだと思うがその時のお祭りには、大人達が名所の休憩所で八木節を踊ったと言う事を聞かされた。又、当時の記念写真には花を飾った山車が写されていたので、おそらく何台かの山車を曳いて行ったのではないかと思う。前回（昭和39年）大祭は、各町内で山車の代わりにトラックに飾り付けをして参加している。当時は、お囃子を担当していて役員から離れていたのだから細かな事について残念ながら記憶していない。

西小坪南町
 世話方
 高橋八五郎
 一 柳松助
 (山八)

昭和七年八月廿日

森山神社大祭記録

神輿擔
 蓮名 二輪名
 在町長
 副班長
 女役長
 女
 若菜由郎
 根岸勝齋
 高崎五郎
 根岸源藏
 一 柳三次郎
 菊川市藏
 竹村五郎

役員連名
 町頭
 高崎久藏
 合 草柳庄藏
 高橋八五郎
 一 柳松助
 青年 草柳熊吉
 支部長 一 柳弘吉
 女 一 柳榮吉

昭和7年度 森山神社大祭の記録 (南町)

編集後記

33年大祭を一生のうち2回迎えることの出来る人は幸福であるという。

長寿を意味するからでしょう、現在のような高齢者社会においては3回程度経験する人が多くなっていることでしょう。

それにしても、今年の33年大祭は一段と気合のはいった祭となりました。このことは社会情勢というか、何か人の心を動かすものがあったものと思われました。

33年毎というのは永過ぎるのではないか?という声もありますが、それを受け継ぐ人達は一層の責任があるものと痛感致しました。

お蔭様で、幸いにも、一人の故障者も無く、盛大に、しかも厳粛なお祭を行うことが出来ました。これはひとえに小坪並びに葉山の氏子の皆様のご支援、ご協力の賜ものと誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。

今までこうした記録書がありませんでした、編集委員の皆様には大変お世話になりました。

最後になりましたが、ご寄稿戴いた皆様始め応援下された方々に対し厚くお礼申し上げます。

この記念誌を通じて三浦半島地区に残る奇祭として広く人口に膾炙されることを願うものであります。

平成9年3月

33年大祭記念誌編集委員会

委員長	岡村萬里
副委員長	常盤耐希
委員	一柳秀一
	池田博範
	岡本彬
	河合成彦
	草柳勝吾
	高田久男
	高井総一郎
	高崎紀良
	根岸俊二

(委員は50音訓)

三十三年大祭広告御賛助会社・店舗一覧

(有) 二葉	71	シンドー	100
海潮山仏乗院	72	与助丸	100
紋次郎	73	守山丸	100
小坪漁業協同組合	74	東京海上火災代理店ムラキトータルサービス	100
トーヨコ建設(株)	75	日動火災海上保険(株)小坪代理店	100
ねぎし	76	まるき丸	100
(有) 魚佐次水産	77	大竹丸	101
(有) 大辰水産	78	蔦健	101
(有) 丸正魚店	79	兼安工務店	101
久平	80	松井工務店	101
岡本釣具店	81	安田塗装店	101
岡本電気	82	ひかりマッサージ	101
(有) 角喜	83	牛尾商店	101
(有) 南電業	84	宮崎漢方薬局	101
マクドナルド由比ヶ浜店	85	蔦一柳	102
望月産業株式会社	86	八百喜支店	102
浜友会	87	(株) 藤井モータース	102
ひらい	88	湘南電気商会	102
(有) 逗子アルミ建材	88	中西理容店	102
草柳工務店	89	神奈川県信用組合	102
(株) ファミリーマート	89	サンライズ	102
新富鮨	90	(有) アート商会	103
キングストア	90	やまとめ丸	103
(有) 谷亀魚店	91	山田商店	103
魚佐次	91	(株) 一柳冷機	103
TANIZEN	91	大木鉄工所	103
長沼板金店	92	広瀬電化サービス	103
井楯建築	92	瀬戸薬局	103
逗子マリーナ	92	HAYASHI	103
(有) マツイ電工	93	森美容室	104
(有) 花本塗装	93	はなえ	104
太陽舎	93	うしお	104
カワナホーム	94	金子左官工業所	104
北川	94	元島板金	104
魚勝	94	美樹装飾	104
うな藤	95	草柳タイル工業	104
鎌倉ヒロ病院	95	三友電工有限会社	104
(有) 嵯峨美屋こばやし	95	(株) 管波建設	105
鎌倉牛尾酒店	96	(有) 原田塗料店	105
魚文商店	96	浜屋ガラス	105
(有) 真下設備工業	96	ミカミ	105
魚誠	97	(有) 山上輪業	105
萩原商店	97	スズキヤ	105
ピッコロヴァーン	97	京急葉山交通(株)	105
(有) 大木設備工業	97	(有) ナカムラ生花	105
松岡表具店	98	自交総連鎌倉タクシー支部	106
きみえ	98	河野新聞店	106
はせしよく食堂	98	菊池タクシー	106
(有) はんざわ設備工業	98	信天翁あほうどり	106
鎌倉タクシー(株)	99	(有) 宝自動車整備	106
温古堂	99	龍生堂文具店	106
(資) 阪本印刷所	99	(株) 神中運輸	106
KOTSUBO MARINA	100	悠	107
小柴防水	100	(株) 石長	107
本田左官店	100		

小坪須賀神社・葉山森山神社
三十三年大祭記念誌

平成九年三月二十日 第一刷

編集 三十三年大祭編集委員会

発行 小坪区会
区長 岡村 錦一
小坪氏子総代会
会長 一柳 秀一

印刷 合資会社 阪本印刷所
逗子市山の根 1 - 5 - 22
電話 0468 (71) 3238

表紙デザイン：池田博範

